

事務事業名	イングリッシュ・サマー・キャンプ事業				担当	教育委員会 学校教育課 教育政策係		
政策名	1	「人づくり」～豊かなこころアップ!～			<input type="checkbox"/> 総重 (総合計画重点事業) <input type="checkbox"/> 総新 (総合計画新規事業) <input type="checkbox"/> 戦拡 (総合戦略拡充事業) <input type="checkbox"/> 戦新 (総合戦略新規事業)			
施策名	3	国際化に対応した教育						
関連個別計画	真岡市子ども・子育て支援事業計画				事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input type="checkbox"/> 毎年度実施 (開始年度 H28 年度～) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度～ 年度)		
法令根拠								
予算科目	1.一般会計	10.教育費	1.教育総務費	3.教育振興費				
予算科目								
事業概要	社会全体のグローバル化が急速に進む中、真岡市では国際理解教育の一環として、平成元年から市内各中学校がそれぞれに海外に姉妹校を持ち、中学生同士のホームステイや授業体験、生活体験を実施するなどの相互の教育国際交流を展開してきた。本市におけるこのような国際理解教育の経緯を踏まえ、広い視野を持ち、異文化を理解し、世界の人々と協調して生きていく態度を身につける機会を小学生にも広げることで、将来本市出身の子どもたちが世界で活躍するための素地を養うために、英語を母国語とする者と短期的及び集中的に交流する英語キャンプを実施する。							

1. 現状把握の部 (1) 事務事業の目的と指標

① 手段 (主な活動)		④ 活動指標 (事務事業の活動量を表す指標) の推移						
4年度実績 新型コロナウイルス感染症の対策を十分にとりながら、参加者数を1日あたり30名に制限し、同一プログラムで2日間隔りで実施した。 令和3年8月1日・2日 8:45～14:00 対象者：市内小学校5・6年生 応募者数：60名 参加者数：49名 会場：真岡市自然教育センター 参加者数を1日あたり30名に制限し、同一プログラムで2日間実施した。 5年度計画 夏季休暇中 2日間 9:00～16:00 対象者：市内小学校5・6年生 120名 会場：真岡市自然教育センター 参加者数を1日あたり60名とし、同一プログラムで2日間実施する。		名称	単位	31年度(実績)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(見込)
		ア 事業実施回数	回	1	0	2	2	2
		イ 参加児童数	人	57	0	59	49	120
		ウ						
		エ						
② 対象 (誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等		⑤ 対象指標 (対象の大きさを表す指標) の推移						
市内小学校5・6年生		名称	単位	31年度(実績)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(見込)
		ア 小学校5・6年児童数	人	1506	1521	1464	1432	1490
		イ						
		ウ						
		エ						
③ 意図 (この事業によって、対象をどう変えるのか)		⑥ 成果指標 (対象における意図された対象の程度) の推移						
外国人との活動を通して「生きた英語」を学び、英語によるコミュニケーション力を高める。		名称	単位	31年度(実績)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(見込)
		ア 「英語をつかおうとすることができた」児童の割合	%	-	-	93	94	100
		イ 「仲間と助け合うことができた」児童の割合	%	-	-	97	98	100
		ウ						
		エ						
② 総事業費の推移		単位	31年度(実績)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(見込)	
投入量	事業費	財源内訳	千円	0	0	0	0	0
		国庫支出金	千円	0	0	0	0	0
		県支出金	千円	0	0	0	0	0
		地方債	千円	0	0	0	0	0
		その他	千円	0	0	0	0	0
一般財源	千円	494	0	494	494	494		
事業費計 (A)		千円	494	0	494	494	494	

2. 1次評価の部 *原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的妥当性評価	①政策体系との整合性 市の政策体系に結び付き、社会環境や住民ニーズ等を考慮した上で目的は妥当か？	<input type="checkbox"/> 見直し余地はない <input type="checkbox"/> 見直し余地がある (評価理由) 外国人との活動を通して児童の英語力の向上や国際理解を推進を図ることで、児童の「外国人とのコミュニケーション能力の向上」に結びつく。
	②公共関与の妥当性 市が事業に関与する必要があるか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地はない <input type="checkbox"/> 見直し余地がある (評価理由) 児童の国際理解教育の推進や英語教育の充実は市教育委員会が行うべき事業であり、妥当である。
	③対象と意図の妥当性 ・1枚目の②「対象」③「意図」は適切か？ ・対象を限定・追加する必要があるか？ ・意図を限定・追加する必要があるか？	<input type="checkbox"/> 対象・意図を見直す必要はない <input type="checkbox"/> 対象を見直す必要がある <input type="checkbox"/> 意図を見直す必要がある (評価理由) 体験内容が小学校5・6年生の発達段階に適切であり、中学校での教育国際交流につながるため、妥当である。
有効性評価	④成果の向上余地 ・成果を向上させる余地はあるかどうか？ない場合の理由は適切か？ ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか？ ・何が原因で成果向上が期待できないのか？	<input type="checkbox"/> 向上余地はない <input type="checkbox"/> 向上余地がある (評価理由) 新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、今年度も日帰りで事業を実施した。また、よりよい事業となるため今年度からは児童アンケートの他、保護者アンケートも実施した。今年度のアンケート内容・スタッフの感想や反省を生かし、来年度もさらによりよい内容となるよう検討を行う必要がある。
	⑤類似事業との統廃合・連携の可能性 ・類似事業はないか、統合や連携はできないか？	<input type="checkbox"/> 類似事業と統合・連携ができる(類似の事務事業名：) <input type="checkbox"/> 類似事業と統合・連携できない(類似の事務事業名：) <input type="checkbox"/> 類似事業はない (評価理由) 他に類似事業はなく、統合・連携できない。
効率性評価	⑥事業費の削減余地 ・成果を下げずに実施主体の見直しによりコスト削減をできないか？ ・実施方法の適正化によりコスト削減をできないか？	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある (評価理由) 事業を実施するための最低限の費用であり、削減できない。

3. 改革・改善方向の部

(1) 改革の方向性(改革案・実行計画) <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 見直し(<input type="checkbox"/> :目的妥当性 <input type="checkbox"/> :有効性 <input type="checkbox"/> :効率性) <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 継続	(3) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
			コスト																					
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 課題、課題の克服の方向性																								

4. 事務事業の2次評価結果(事業の総括と事業の方向性)

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 <input type="checkbox"/> 記述説明不足(説明責任不充分) <input type="checkbox"/> 評価内容が客観性を欠く <input type="checkbox"/> 評価内容は客観的と言える	(5) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
			コスト																					
			削減	維持	増加																			
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 2次評価者としての評価結果 ①目的妥当性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり																								
(3) 2次評価者として判断した今後の事業の方向性 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的絞込み <input type="checkbox"/> 目的拡充 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 予算増大 <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	(4) その他2次評価会議で指摘された事項 昨年度のアンケート結果等を生かし、参加する児童にとってさらによりよい体験活動となるよう、活動内容を検討すること。																							